

各水試発トピックス

室蘭沖で漁獲された珍しいナマコ

今年の3月末に室蘭沖のナマコ桁曳き漁業（水深30m）で写真のような変わったナマコが採取され、市立室蘭水族館を通じて栽培水試に種の査定を相談されました。室蘭水族館ではこれまでも同じものが持ち込まれたことがあったようですが、種不明のため特に展示もせずにいたそうです。

赤みがかった柔らかい体全体を、黄色みがかった管足（吸盤が付いた足）が覆い、赤い触手はキンコのように樹枝状に伸ばします。水族館で飼育中に内臓を吐出したため、この消化管と生殖巣を観察させてもらったところ、採取個体は雄（体重222.5g）で、精子を多く形成しており、この時期が産卵期ようです（水温4℃）。消化管にはわずかに珪藻類が確認できました。

水試では種の査定ができず、神奈川県の上野の森水族館の倉持研究員に査定をお願いしたところ、骨片の形状からモグラナマコ *Pentadactyla japonica*（東京湾から有明海などの砂泥域に分布）との回答をいただきました。

室蘭近海での採取事例がない未記録種だそうです。

世界にはおよそ1,400種類ものナマコの仲間が生息し、我が国にはこのうち187種がいるとされます。

北海道には今話題のマナマコのほか、昔根室などを中心に大量に漁獲されていたキンコ（フジコ）やまれに漁獲されるオキナマコなどの食用となる大型種、これらと同じようなところにいる小型のイシコに加え、砂浜域にはシロナマコがいますが、今回のように大型なのにこれまであまり眼

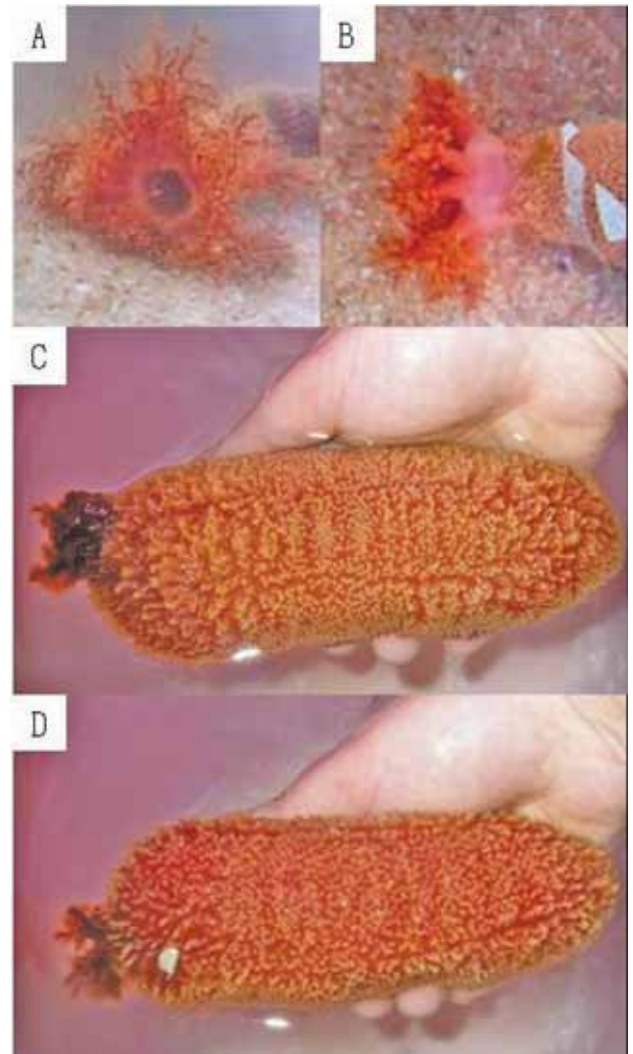


写真1 室蘭沖で採取されたナマコ
A:触手を伸ばした口器 B:背面から見た口器
C:体全体の様子（背面） D:同腹面

にすることのなかったナマコもまだまだいるようです。海の懐は深く、我々が眼にする^{まなこ}ことがない生き物はこれからも現れるかもしれません。

（酒井 勇一 栽培水試栽培技術部）